

委託事業実施内容報告書
令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】
実施内容報告書

団体名：社会福祉法人さぼうとにじゅういち

1. 事業の概要

事業名称	外国人住民と日本人住民が本気で「防災」に取り組むための日本語教育展開事業 ～オンラインでのつながりを有効に活かして～
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	(当団体の主たる支援対象者である「難民」の場合、国での迫害を逃れ、他国に保護を求めた方々であり、まずは「安全な環境で安心して日々暮らすこと」が日本に在留する目的である。彼らの場合、自国政府からの保護や支援は期待できない。また、難民的背景をもたない同国出身者と不用意に接触することはできないという事情もあり、地域との関わりがもちにくい。そうした特異な事情から、以下は「日本語教育活動に関する地域の実情・課題」というより「難民的背景をもつ方々」についての日本語教育活動に関する実情・課題となる。) 令和元年の難民認定者はアフガニスタン16人、リビア4人等44人となっている。当団体も、かつてはミャンマー出身者が学習者の大半を占めていたが、コンゴ民主共和国、アフガニスタン、エジプト、エチオピア、シリア、ウガンダ等、属するコミュニティをもたず、日本への定住にかなりの困難を感じている難民の方々との関わりが増えている。彼らにとっては、まずは「安全で安心な」日々の暮らしを確保することが最優先事項であり、そのために日本語学習へのニーズも非常に高い。そうした状況を反映してか、ここ数年、難民支援団体それぞれが、関わる難民の方々のニーズを反映した日本語教育を積極的に行うようになってきた。団体間での個別の情報共有も以前より活発に行われるようになってきている。 また一方、「第三国定住難民」に関しては、対象となる難民の基準を緩和し、年30人程度にとどまっている受け入れ人数を倍増する方向性が示されており、今後は、日本国内の様々な地域で「難民」を受け入れる状況になると予想される。 難民の方々が「安全で安心な」毎日を送れるよう日本語教育がそれを支えて行くこと、日本語教室が単なる日本語学習の場であるだけでなく、外国人住民の「安全で安心な」日々の暮らしを担保する場として機能することが期待される。 おりしも、令和3(2021)年度は世界中を恐怖と不安が襲った一年間であった。これまで以上に「人が集まること」が難しくなり、人々のつながりをどう保っていくかが問われる状況に陥った。しかし、だからこそ、地域日本語教室が仮にオンラインであっても「日本語+α」を学び、安全や安心を感じることでできる大切な場として機能するのではないかと考えている。 最後に、これまで、その抱える困難の大きさや個人情報の保護の観点から、なかなか難民に対する日本語教育が、他の定住外国人に対する日本語教育に資する部分は少なかったように思われるが、より多様な外国人住民の定住化が進むであろう現状を鑑み、今後は、難民に対する日本語教育の実践が、地域日本語教室の活動に貢献できる可能性も高くなるだろうと考えられる。
事業の目的	【目的】 本事業の目的は、地域日本語教室を難民等外国人住民の「防災」日本語学習の拠点として位置づけ、「防災」に関する日本語学習をきっかけに、地域日本語教室、外国人コミュニティ、外国人支援団体、自治体等をつないだ日本語教育のネットワークの構築を進めていくことである。自助共助の意識を強くもった外国人住民・日本人住民が地域日本語教室で共に育っていくことを期待している。 【今年度の目標】 ●令和元年度から作成している「本気で防災を学ぶ紙芝居型日本語教材」(以下「防災日本語紙芝居」)の追加(最終)作成、普及を進める ●オンラインも含めた教室活動の中に「防災」を無理なく取り入れた地域日本語教室のモデルを提示する。 ●「防災-外国人住民-日本語-日本語教室」の重要性を認識し、そのような視点で「地域日本語教室」の有用性を理解する人を増やす ●「本気で防災日本語紙芝居」の普及活動を通じて、地域日本語教室、外国人コミュニティ、外国人支援団体、自治体等のゆるやかなネットワークの構築を進める
本事業の対象とする空白地域の状況	—

事業内容の概要	「日本語教育活動に関する地域の実情・課題」で記した通り、当団体は、日本語教室が単なる日本語学習の場であるだけでなく、外国人住民の「安全で安心な日々の暮らしを担保する場」として機能することを目標として活動を進めている。具体的には「医療」、「防災」を主軸に据えて活動を展開しているが、とくに「防災」については、日頃からの「ストック(蓄積した)情報」の有無が、発災時において外国人住民の生死にも関わりかねない重要なことであるととらえている。外国人住民が「ストック情報」を蓄積するために、最も有効に機能するのが「地域日本語教室」であると確信し、令和元(2019)年度、「「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 地域日本語教育実践プログラム(B)」により、「日本語教室を外国人住民の防災学習の拠点」としてとらえた事業を開始した。 事業開始から2年目の令和2(2020)年度、コロナ禍にあって、地域日本語教室は大きな打撃を受けた。活動を停止しなければならなかった団体も多い。しかし、当団体は「コロナ」という想定外の「災害」の中で、「日本語教室」が、関わる外国人住民(難民的背景をもち在留する方々)の「情報の拠り所」であり、「相談先」であり、「人とつながることのできる場」であることを実感した。当団体が令和2(2020)年4月の比較的早い段階で活動のオンライン化に踏み切ったのも、どのような形であれ、「場」を維持しなければならないという使命感に突き動かされたからにほかならない。そして、コロナ禍にあっても、地震や大雨等の災害は変わることなく発生しており、令和元(2019)年度に開始した事業の必要性に変わりはない。 一方、当団体は文化庁事業により、平成25(2013)年以来、東京を中心とする多くの地域のボランティアを対象に、その資質向上を目指した講座を実施してきた。令和2(2020)年度には、その講座を受講した方々を中心にできあがっていた、ゆるやかなネットワークに働きかけ、「防災」のワークショップの有用性を周知することができた。年月をかけて築いてきた「人」のネットワークを生かすことが有効だと実感した。
	令和3(2021)年度、「コロナ禍」において、実施した事業の概要は以下の通りである。 事業(1)／取組②「実践＋モデルの提示」 ○1:「体験を通して学ぶ導入期日本語講座」(以下「日本語教室」)、「さぼうと21学習支援室」2か所(本事業対象外)において、「防災学習を積極的に教室活動に取り入れた日本語教室」の実践を進めた。「本気で防災日本語紙芝居」やこれまでに当団体が作成した防災関連の資料を活用した。 ○2:「生活力向上のためのワークショップ」(以下「WS」)において「おうちから防災」のテーマでオンライン・ワークショップを行った。 ○3:コミュニティのキーパーソン的役割を担う方々を主たる対象とした「生活力向上のための勉強会」(「生活勉強会」)を開催し、様々な日本の生活関連情報について日本語で学ぶ場を設け、新たな外国人住民のネットワークづくりに着手した。「日本語教室を外国人住民の防災学習の拠点」としてとらえてもらうための基盤づくりとしてとらえている。 事業(2)／取組③ 事業成果の発信 オンライン上で防災学習の有用性を発信するための報告資料「みんなで防災がんばろう!」を作成した。 事業(3)／取組④ ネットワーク構築のための担い手(日本語学習支援者)の育成 「地域日本語教室ボランティアのための活動基礎講座」(以下「活動基礎講座」)を行い、日本語学習支援者とのネットワークづくりを進めた。 ・コロナ禍にあり、日本語学習支援者の関心の高い、オンライン学習支援をテーマとして「活動基礎講座」を実施した。 事業(4)／取組⑤ 「モノをつくる」 作成済の「防災日本語紙芝居」の改訂、増補を行った。作成した資料は、ホームページに掲載した。
事業の実施期間	令和 3年 5月下旬 ～ 令和 4年 3月 (11か月間)

2. 事業の実施体制

(1)運営委員会

【運営委員】

1	大原 真一郎	(特非)難民を助ける会(AAR Japan)
2	奥原 淳子	早稲田大学日本語教育研究センター他・非常勤講師
3	小倉 文佳	(特非)プラス・アーツ・東京事務所長
4	高橋 敬子	(社福)さぼうと21・理事長
5	檜山 怜美	(特非)なんみんフォーラム・スタッフ
6	矢崎 理恵	(公財)中国帰国者支援・交流センター他・日本語講師 (社福)さぼうと21・学習支援室チーフコーディネーター
7	LIA CING LAM MANG	(公財)アジア福祉教育財団・難民事業本部・臨時職員

運営委員会 ご案内

■日時：2022年3月16日(水) 19時～21時

■オンライン (Zoom) にて開催

■出席者

奥原 淳子 早稲田大学日本語教育研究センター他・非常勤講師

小倉 文佳 (特非) プラス・アーツ・東京事務所長

高橋 敬子 (社福) さぼうと21・理事長

檜山 怜美 (特非) なんみんフォーラム・スタッフ

矢崎 理恵 (公財) 中国帰国者支援・交流センター他・日本語講師

(社福) さぼうと21・学習支援室チーフコーディネーター

LIA CING LAM MANG (公財) アジア福祉教育財団・難民

大原 真一郎 (特非) 難民を助ける会 (AAR Japan) 国内災害支援

■内容

1 今年度の文化庁事業のご報告

2 「在住外国人と防災」について、意見交換

当日会議案内

※写真の保存ミスで掲載できず

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和4年3月16日 (水) 19:00～21:00	2時間	オンライン(Zoom)	矢崎 理恵、奥原 淳子、小倉 文佳、檜山 怜美、LIA CING LAM MANG、大原 真一郎(AAR)	・今年度の文化庁事業のご報告 ・「在住外国人と防災」について、意見交換

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制

■「広報」「受講者募集」「事業内容の検討や共有」「事業内容の共有」等により、協力体制を構築。
とくに令和3(2021)年度は、「体験を通して学ぶ日本語教室」、「生活勉強会」の実施により、防災学習の普及を可能にする体制を整えた。

```
graph TD; A[活動基礎講座・オンライン防災教室] --> B[国際交流協会等]; A --> C[地域日本語教室]; A --> D[難民支援団体]; A --> E[難民事業本部]; A --> F[外国人コミュニティ]; A --> G[さほうと21 日本語教室]; A --> H[さほうと21 学習支援教室 (2教室)]; A --> I[生活勉強会]; A --> J[紙芝居]; A --> K[ワークショップ]; A --> L[防災];
```

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制

本事業については、以下の実施体制にて行った。事業終了時には、防災関連報告書資料を作成して、ホームページに公開した。

```
graph TD; A["【運営委員会】  
委員長：高橋敬子  
全体総括・予算執行者  
事業検証"] --> B["【連携先団体等】"]; A --> C["【全体コーディネート】  
企画・実行責任者：  
矢崎理恵"]; C <--> D["【事業内容検討小委員会】  
事業内容の検討"]; C --> E["【参加型日本語教室】 ※防災学習  
CDN: 神村みどり・矢崎理恵  
① 日本語教室（森戸規子他）  
② ワークショップ（神村みどり）  
③ 生活勉強会（神村みどり）  
※外国人住民のゆるやかなネットワー  
クりに着手"]; C --> F["【事業成果の発信】 ※事業の周知  
CDN: 矢崎理恵  
※オンライン上で公開"]; C --> G["【活動基礎講座】 ※担い手育成  
CDN: 矢崎理恵  
※日本語学習支援者のゆるやかなネット  
ワークづくりの継続"]; C --> H["【防災紙芝居作成】 ※普及のツール  
CDN: 神村みどり  
※全編完成、HP 掲載"];
```

【運営委員会】
委員長：高橋敬子
全体総括・予算執行者
事業検証

【全体コーディネート】
企画・実行責任者：
矢崎理恵

【事業内容検討小委員会】
事業内容の検討

【参加型日本語教室】 ※防災学習
CDN: 神村みどり・矢崎理恵
① 日本語教室（森戸規子他）
② ワークショップ（神村みどり）
③ 生活勉強会（神村みどり）
※外国人住民のゆるやかなネットワー
クりに着手

【事業成果の発信】 ※事業の周知
CDN: 矢崎理恵
※オンライン上で公開

【活動基礎講座】 ※担い手育成
CDN: 矢崎理恵
※日本語学習支援者のゆるやかなネット
ワークづくりの継続

【防災紙芝居作成】 ※普及のツール
CDN: 神村みどり
※全編完成、HP 掲載

【さばうと 21 事務局】
会計・広報・事務対応

連携先団体等

3. 各取組の報告

＜取組2-1＞【実施期間:令和 3年 11月 15日～令和 4年 1月 27日】	
取組の名称	体験を通して学ぶ導入期日本語教室(1)
取組の目標	・体験を通して学ぶ日本語教室への参加により、外国人住民(難民等)が日本人とのコミュニケーションをおそれず、自ら考え、行動できるような気持ちをもてるようになること。最低限必要な生活上の行為が達成できるようになること ・日本語教室での学びを通して、外国人住民(難民等)、先輩外国人住民、日本人住民が互いを尊重しあってコミュニケーションをとる楽しさを知り、日本社会の一員として共に暮らしていこうという意識をもてるようになること

取組の内容		●1 全体の構成 指導者、ボランティア参加者、学習者が体験を通して共に学ぶ日本語教室を対面で展開した ○具体的な「体験」 「街歩き」「買い物」「料理」「防災館」「学習者中心の発表会」など ●2 教室の時間等 授業時間：毎週月曜日・水曜日・木曜日 10:00-12:00 各回2時間・計60時間（2021年11月～2022年1月） ●3 1回の授業のイメージ（1回2時間） ① 挨拶・日にちの確認・出欠（5分） ② 今日のフレーズ紹介と練習（10分） ③ 前回の復習（10分） ④ 当日単元に関連した絵カードの提示と語彙力のUP（10分） ⑤ 課題の提示・意識化（10分） ⑥ 行動・体験を通じての課題達成（45分） ⑧ 文字学習（30分） ●4 使用教材 『はじめての500ご』（当団体作成教材） 指導者作成教材										
		—										
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動	—										
取組による体制整備		・本教室は、来日直後の外国人住民を対象にして実施された。基礎日本語教育の要素を多分にもちつつ、生活者としての外国人の生活体験を重ね合わせるといふ、導入期日本語教室として貴重なモデル提示となっている。体制整備事業に直接寄与できる部分は少ないが、体制整備事業において検討が進められる日本語教育のかたちを提案している。										
取組による日本語能力の向上		開始時には簡単な挨拶さえもできなかった5名であるが、終了時には何とか最低限のやり取りができるようになり、ひらがな、カタカナも読めるようになった。										
参加対象者		アフガニスタンから退避した人たち 日本語でのコミュニケーションがほとんどとれない人たち					参加者数 （内 外国人数）		5人（5人）			
広報及び募集方法		・通常の相談業務の中からニーズが確認されたため、今回は非常に限られた範囲で電子メールにて教室開催予定を案内した。										
開催時間数		総時間 60時間（空白地域 時間）					内訳 1回 2時間 × 30回 = 60時間					
主な連携・協働先		（特非）難民を助ける会（AAR Japan）、なんみんフォーラム参加各団体										
受講者の出身 （ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計	
											0	
※該当する場合のみ		アフガニスタン（5人）										
実施内容												
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	令和3年11月15日（月） 10:00～12:00	2	ビジネスエアポート目黒	5	Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑にする（31）人と付き合う Ⅹ情報を収集する 21通信する（47）電話・ファクシミリを利用する	A)名前の確認 B)簡単な自己紹介 C)数字 D)（～の）電話番号は～です		森戸 規子				
2	令和3年11月17日（水） 10:00～12:00	2	ビジネスエアポート目黒	5	Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑にする（31）人と付き合う Ⅲ消費活動を行う 05物品購入・サービスを利用する（08）物品購入・サービスを利用する	A)自己紹介復習＋α B)数字 C)いくらですか		森戸 規子				
3	令和3年11月19日（金） 10:00～11:00	2	ゴブリン	5	Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑にする（31）人と付き合う Ⅹ情報を収集する 21通信する（47）電話・ファクシミリを利用する	A)自己紹介 B)欠席の電話をかける		田中 由美子				
4	令和3年11月22日（月） 10:00～12:00	2	ゴブリン	5	Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑にする（31）人と付き合う Ⅲ消費活動を行う 05物品購入・サービスを利用する（08）物品購入・サービスを利用する	A)あいさつ復習 B)数字復習 C)注文 いくらですか？（その他表現を増やす） D)何ですか？ E)いろいろな質問に答える		森戸 規子				

5	令和3年11月24日(水) 10:00～12:00	2	ゴブリン	5	Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑に する(31)人と付き合う	A)「今日は11月24日、水曜日です」「いい天気ですね」「ちょっと寒いですね」紹介 B)ものの名前の復習(前回Dのもの) C)何ですか、日本語で何ですか D)これそれあれ／～は何ですか E)数字(復習+大きな数字1000~100,000) F)五十音表読み合わせ	森戸 規子	
6	令和3年11月25日(木) 10:00～12:00	2	ゴブリン	5	Ⅲ消費活動を行う 05物品購入・サービスを利用する(08)物品購入・サービスを利用する	A)「○○はXX[語で何ですか]を再度練習。「Good morningは日本語で何ですか」「ありがとうはダリ語で何ですか」など B)名札づくり C)欠席連絡。再度練習⇒「失礼します」／「すみません」 D)外出(場所を探す+物を探す+値段を見る+買う)※上記で時間がかかったので、買う物は3つに限定(ケチャップ@プレッセ、ホッチキス@ゆうりんどう、みかん@アトレ地下のさわみつ青果)	矢崎 理恵	
7	令和3年11月29日(月) 10:00～12:00	2	ゴブリン	5	Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑に する(31)人と付き合う Ⅲ消費活動を行う 05物品購入・サービスを利用する(08)物品購入・サービスを利用する	A)「今日は11月29日です、水曜日です、いい天気ですね、ちょっと／とても寒いですね」練習1 B)先週木曜日のツアーの振り返り+α C)どこですか、ここそこあそこどこ D)何階ですか、～階 E)カタカナ清音濁音の読み、名前の書き F)フレーズ:いい天気ですね、寒いですね／買います、払います	森戸 規子	
8	令和3年12月1日(水) 10:00～12:00	2	ゴブリン	5	Ⅲ消費活動を行う 05物品購入・サービスを利用する(08)物品購入・サービスを利用する	A)今日は12月1日です」「水曜日です」が言える B)「何ですか、日本語で何ですか、誰ですか、どこですか、何階ですか、いくらですか」の復習 C)「～は・・語で何ですか」「日本語で」「英語で」「ダリ語で」など D)「いま何時ですか」「～は何時から何時までですか」 E)カタカナ五十音表拗音を読む、カタカナ名変更	森戸 規子	
9	令和3年12月2日(木) 10:00～12:00	2	ゴブリン	4	Ⅲ消費活動を行う 05物品購入・サービスを利用する(08)物品購入・サービスを利用する	①時間を聴き取る ②必要な物を購入する (教室内で+実際にお店で)	矢崎 理恵	
10	令和3年12月6日(月) 10:00～12:00	2	ゴブリン	5	Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑に する(31)人と付き合う	A)「今日は12月6日です。月曜日です。」が言えるようになる。 B)数字の復習 C)表現を増やして自己紹介 D)時刻の言い方、何時から、何時までの復習 E)曜日、ときの副詞(きのう、きょう、あした、先週、今週、来週、朝・昼・晩・夜、ごぜん・午後 F)カタカナでの名前書き G)ひらがな五十音(清音・濁音)の確認	森戸 規子	
11	令和3年12月8日(水) 10:00～12:00	2	ゴブリン	5	Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑に する(31)人と付き合う	A)「今日は12月8日です。水曜日です。」が言えるようになる。 B)復習(曜日、数字、時刻、ときを表す副詞) C)「いつですか」練習 D)「～はありますか」「ありますvsいませんの違い」 E)フレーズ、ひらがな読み	森戸 規子	
12	令和3年12月9日(木) 10:00～12:00	2	ゴブリン	5	Ⅶ社会の一員となる 15地域・社会のルール・マナーを守る (34)住民としてのマナーを守る	A)曜日と日付復習 B)ごみの種類 C)リサイクルの種類 D)練馬区の表をもとに、ごみの確認、捨て方の確認 E)映像で紹介 F)実際にマンションのゴミ捨て場の見学 G)自分の住んでいるエリアのごみの日を調べる	田中 由美子	

13	令和3年12月13日(月) 10:00～12:00	2	ゴブリン	5	Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑にする(31)人と付き合う Ⅲ消費活動を行う 05物品購入・サービスを利用する(08)物品購入・サービスを利用する	A)毎日の復習(曜日、ときを表す副詞、数字、時刻) B)復習と会話練習「～はありますか」「あります／ありません」「～階です」練習 C)導入と練習「1つ～5つ」「～をください」「(助数詞)ください」、『～はありますか』と組み合わせで会話練習 D)導入と練習「20の形容詞」の導入、「～はどうですか」 E)フレーズ、ひらがな	森戸 規子	
14	令和3年12月15日(水) 10:00～12:00	2	ビジネスエ アポート目 黒	5	Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑にする(31)人と付き合う	A)毎日の復習(月日、曜日、時を表す副詞、数字、時刻、1つ～5つ) B)前回の復習と会話練習:20の形容詞、「日本の生活に慣れましたか」「～はどうですか」「形容詞」を含む会話 C)導入と練習:食べ物、飲み物、果物などの語彙、「どんな～が好きですか」「～が一番好きです」「私も・・・」 D)フレーズ・ひらがな	森戸 規子	
15	令和3年12月16日(木) 10:00～12:00	2	ゴブリン	5	Ⅶ社会の一員となる 15地域・社会のルール・マナーを守る (34)住民としてのマナーを守る Ⅰ健康・安全に暮らす 02安全を守る (05)災害に備え、対応する	A)復習(形容詞・時間) B)ごみの分別振り返り C)災害について D)防災館について	田中 由美子	
16	令和3年12月20日(月) 10:00～12:00	2	ゴブリン	5	Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑にする(31)人と付き合う Ⅵ目的地に移動する 07公共交通機関を利用する (10)電車、バス、飛行機、船等を利用する	A)毎日の復習(月日、曜日、朝昼午後夕方 晩夜、時刻、数字)／形容詞 B)前回の復習と会話練習:「～はどうですか」「どんな～が好きですか」の文型、関連語彙、会話 C)フレーズ:前回と同じもの D)目黒～池袋間の山手線の駅名と漢字(イメージとして)／「～はいくつ目ですか」	森戸 規子	
17	令和3年12月22日(水) 10:00～12:00	2	ゴブリン	5	Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑にする(31)人と付き合う Ⅵ目的地に移動する 07公共交通機関を利用する (10)電車、バス、飛行機、船等を利用する	A)毎日の復習(月日、曜日、時刻、数字、形容詞) B)文法(名詞文、形容詞文、動詞文の肯定・否定、過去・非過去の形の導入) C)防災館見学の準備 D)年賀状書きの準備	森戸 規子	
18	令和3年12月23日(木) 9:00～11:00	2	池袋防災館	4	Ⅰ健康・安全に暮らす 02安全を守る (05)災害に備え、対応する Ⅵ目的地に移動する 07公共交通機関を利用する (10)電車、バス、飛行機、船等を利用する	池袋防災館にて ・AED ・地震 ・煙 ・消火器 体験をする	田中 由美子	
★	令和3年12月26日(日) 8:30～11:30		さぼうと21 事務所		—	受講者へのヒアリング(5名分)	—	コーディネート1名
19	令和3年12月27日(月) 10:00～12:00	2	ゴブリン	5	X情報を収集・発信する 21通信する (45)郵便・宅配便を利用する	A)防災館の振り返り(10分) B)年賀状購入に関すること C)年賀状の文面を書く D)年賀状の宛名を書く	森戸 規子	
20	令和4年1月5日(水) 10:00～12:00	2	ビジネスエ アポート目 黒	5	Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑にする(31)人と付き合う	A)新年、正月関連の文化、語彙・表現の学習と形容詞・動詞の過去形の練習 B)文字学習(ひらがな12文字) C)基本動詞20の導入 D)書初め準備	森戸 規子	
21	令和4年1月6日(木) 10:00～12:00	2	ビジネスエ アポート目 黒	5	Ⅰ健康・安全に暮らす 02安全を守る (05)災害に備え、対応する Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑にする(31)人と付き合う	A)防災館の事後学習 B)書初め体験	田中 由美子	

22	令和4年1月10日(月) 10:00～12:00	2	ゴブリン	5	Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑にする(31)人と付き合う	A)毎日の練習(名詞、な形容詞、い形容詞、動詞の否定形・過去形) B)復習(20の動詞、絵カードを見て動詞が言えるように) C)導入・練習 1「～をVます」「何をVますか」「～へVます」「どこへVますか」、2「～を食べ・飲みませんか」「ありがとうございます。いただきます」「すみません、けっこうです」／「いっしょにVませんか」「いいですね。Vましょう」「すみません、ちょっと」 D)フレーズ E)ひらがな:「あ～そ」の書き	森戸 規子	
23	令和4年1月12日(水) 10:00～12:00	2	ゴブリン	5	Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑にする(31)人と付き合う	A)毎日の練習(名詞、い／な形容詞、動詞の形) B)復習(20の動詞、絵カードを見て動詞が言えるようにする) C)導入・練習 1(起きます、寝ます、働きます、勉強しますについて)「何時に」を導入、毎日何時に起きるか寝るか、昨日何時に寝たかなどの練習 2他動詞について「何を」「何時に」「どこで」「だれと」を導入、昨日の晩ごはんについて話せるように練習 D)ひらがな: 山手線の駅名の読み、「た～の」の書き	森戸 規子	
24	令和4年1月13日(木) 10:00～12:00	2	さぼうと21事務所	5	Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑にする(31)人と付き合う	A) 日本料理について知る。調味料について知る。 B) 手巻き寿司と味噌汁の材料を買いに行く。 C) 下準備をする。	田中 由美子	講義補助1名
25	令和4年1月17日(月) 10:00～12:00	2	エクセル ルーム・目黒	5	Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑にする(31)人と付き合う	A)20の動詞・既習の疑問詞の復習と練習 B)導入・練習「いつ」:「いつ日本へ来たか」を中心に C)最終日発表の準備:個人のスピーチと、日本人とする会話について説明と練習	森戸 規子	
26	令和4年1月19日(水) 10:00～12:00	2	ゴブリン	4	Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑にする(31)人と付き合う	A)20の動詞・既習の疑問詞の復習と練習、いくつかの動詞の導入 B)発表の練習	森戸 規子	
27	令和4年1月20日(木) 10:00～12:00	2	さぼうと21事務所	4	Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑にする(31)人と付き合う	A) 先週の復習 B) 調理実習	田中 由美子	講義補助1名
28	令和4年1月24日(月) 10:00～12:00	2	エクセル ルーム・目黒	4	Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑にする(31)人と付き合う	A)20の動詞・疑問詞の復習、新たな動詞の導入 B)発表の次第の把握、クラスの説明、個人のスピーチ、会話の練習 C)「発表会のお知らせ」を書く	森戸 規子	
29	令和4年1月26日(水) 10:00～12:00	2	ゴブリン	4	Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑にする(31)人と付き合う	日本語での発表会 A) クラスの説明 B) スピーチ C) 会話 1) 初対面、2) 日本語の勉強、3) 食べ物、4) 誘い	森戸 規子	
30	令和4年1月27日(木) 10:00～12:00	2	ゴブリン	4	Ⅶ人とかかわる 14他者との関係を円滑にする(31)人と付き合う	A) さぼうと日本の味の振り返り B) 昨日のスピーチの振り返り	田中 由美子	
計		60		143				

＜取組2-2＞【実施期間:令和 4年 1月 11日～令和 4年 3月 17日】											
取組の名称		体験を通して学ぶ導入期日本語教室(2)									
取組の目標		・体験を通して学ぶ日本語教室への参加により、外国人住民(難民等)が日本人とのコミュニケーションをおそれず、自ら考え、行動できるような気持ちをもてるようになること。最低限必要な生活上の行為が達成できるようになること ・日本語教室での学びを通して、外国人住民(難民等)、先輩外国人住民、日本人住民が互いを尊重しあってコミュニケーションをとる楽しさを知り、日本社会の一員として共に暮らしていこうという意識をもてるようになること									
取組の内容		●1 全体の構成 指導者、学習者が共に学ぶ日本語教室を対面で展開した ●2 教室の時間等 授業時間:毎週月曜日・火曜日・水曜日・金曜日:16時30分～18時30分、日曜日:10時～12時 各回2時間・計100時間(2022年1月～3月) ●3 1回の授業のイメージ(1回2時間) ① 挨拶・日にちの確認・出欠(5分) ② 文字学習(ひらがな、かたかな、漢字)(45分) ③前回の復習(10分) ④当日単元に関連した絵カードの提示と語彙力のUP(10分) ⑤ 課題の提示・意識化(10分) ⑥ 行動を通じての課題達成(40分) ●4 使用教材 『にほんご45じかん』(専門教育出版)『にほんご45じかん れんしゅうちょう』(専門教育出版) 『つぎのにほんご45じかん』(専門教育出版)『つぎのにほんご45じかん れんしゅうちょう』(専門教育出版) 『かんじ だいすき』(社団法人 国際日本語協会) 『あいうえおのれんしゅう』『アイウエオのれんしゅう』(当団体作成教材)									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動	—									
取組による体制整備		・本教室は、来日直後の外国人住民を対象にして実施された。基礎日本語教育の要素を多分にもちつつ、生活者としての外国人の生活体験を重ね合わせるという、導入期日本語教室として貴重なモデル提示となっている。体制整備事業に直接寄与できる部分は少ないが、体制整備事業において検討が進められる日本語教育のかたちを提案している。									
取組による日本語能力の向上		開始時には簡単な挨拶さえもできなかった5名であるが、終了時には何とか最低限のやり取りができるようになり、ひらがな、カタカナも読めるようになった。									
参加対象者		アフガニスタンから退避した人たち 日本語でのコミュニケーションがほとんどとれない人たち					参加者数 (内 外国人数)		5人(5人)		
広報及び募集方法		・通常の相談業務の中からニーズが確認されたため、今回は非常に限られた範囲で電子メールにて教室開催予定を案内した。									
開催時間数		総時間 96時間(空白地域 時間)				内訳 1回 2時間 × 48回 = 96時間					
主な連携・協働先		(特非)難民を助ける会(AAR Japan)、なんみんフォーラム参加各団体									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
											0
※該当する場合のみ		アフガニスタン(5人)									
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	令和4年1月10日(月) 10:00～12:00	2	特設会場	5	Ⅶ人とかかわる 14 他者との関係を円滑にする(31)人と付き合う	A) ひらがな学習 B)簡単な自己紹介	矢崎 理恵				
2	令和4年1月11日(火) 16:30～18:30	2	特設会場	5	Ⅶ人とかかわる 14 他者との関係を円滑にする(31)人と付き合う	A)自己紹介 B)ひらがな学習 C)数字 D)あいさつ	田中 由美子				

3	令和4年1月14日(木) 16:30～18:30	2	特設会場	5	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) ひらがな学習 B) あいさつ C) 自己紹介・月曜日～日曜日 D) テキスト L1文型1 あおきさんは せんせいです。 文型2 これは にほんごの じしょです。 E) あたらしいことば F) 文を考えて書く(あいさつ・AはBです。)	黒川 亜矢子	
4	令和4年1月16日(日) 10:00～12:00	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) ひらがな(た行だ行) B) 数字(～100) C) 復習「Aさんは学生です。」 「これは日本語で何ですか。」 D) L2文系1「ぎんこうはあそこです。」 「ここ」「そこ」「あそこ」	田中 由美子	
5	令和4年1月17日(月) 16:30～18:30	2	特設会場	5	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) ひらがな(な行) B) 復習: 数字(～31)、日にちの言い方、誕 生日を言う C) 復習「ここ・そこ・あそこ」 「コンビニはあそこです」 L2文型1「ぎんこうはどこですか？」 D) L2文型2「レストランはなんがいです か？」 1階～10階の言い方、地下1階、地下2階	片桐 優子	
6	令和4年1月18日(火) 16:30～18:30	2	特設会場	5	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) ファイリングの仕方 B) 宿題の確認 C) ひらがなの復習 D) は行(濁音、半濁音含む) E) 復習(何階ですか) F) 時間の導入	田中 由美子	
7	令和4年1月19日(水) 16:30～18:30	2	特設会場	5	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) 宿題の確認 B) 文字の練習(ま行) C) 時間の言い方の復習 D) 復習(今何時ですか?) E) 復習(〇時から〇時まで) F) 復習(100から10000まで) G) お金の言い方 H) 数え方	片桐 優子	
8	令和4年1月21日(金) 16:30～18:30	2	特設会場	5	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) 宿題確認・答え合わせ B) ひらがな 読み・確認 C) ひらがな「やゆよわを」 D) 時間「ごぜん」「〇時半」「まで」 E) 数え方「いくつ・何枚」「ぜんぶで」 F) テキストL3文型	黒川 亜矢子	
9	令和4年1月23日(日) 10:00～12:00	2	特設会場	5	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) 目、耳、足などの語彙の練習 B) 宿題の答え合わせ C) ひらがなの復習とら行の導入 D) 数字の復習 E) L3文型の復習 F) L4文型の～人、～さいの導入	田中 由美子	
10	令和4年1月24日(月) 16:30～18:30	2	特設会場	5	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う Ⅲ消費活動を行う 05物品購入・サービス を利用する (08)物品購入・サービ スを利用する	A) 新しい語彙「春、夏、秋、冬」 B) 宿題の答え合わせ C) 形容詞の練習「大きい、小さい、高い、安 い、長い、短い、重い、軽い」 D) 色の言い方の練習「赤、青、白、黒、黄 色」 E) 「場所から場所まで」の言い方の練習 「〇番線」の言い方 F) お店の人とのやりとり 「もっと安いカメラはありますか？」 G) ひらがな練習: 小さい「っ」	片桐 優子	
11	令和4年1月25日(火) 16:30～18:30	2	特設会場	5	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) 促音の復習 B) 長音 C) 4課	田中 由美子	
12	令和4年1月26日(水) 16:30～18:30	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) 4課の復習、家族の説明をする B) 4課の復習「誰ですか？」 C) 5課「銀行はありますか？」 D) 5課「上、下、前、後、右、左、中、外」 D) 文字練習: 長音の復習	片桐 優子	

13	令和4年1月28日(金) 16:30～18:30	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)宿題(ファミリーツリー)確認 B)文字復習、長音・促音・拗音 C)ひらがな「きやきゅきょ」など D)5課文型1 復習「(場所)にNがありま す」 E)5課文型2 導入・練習「(場所)にNがい ます」 F)会話3「AからBまで○で～分です。」 G)会話1・2・3	黒川 亜矢子	
14	令和4年1月30日(日) 10:00～12:00	2	特設会場	3	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)カタカナ(ア～オ、ン) B)プリント(P31,32) C)5課復習 D)日付の言い方	田中 由美子	
15	令和4年1月31日(月) 16:30～18:30	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)カタカナ(カ行、ガ行) B)今日(昨日、明日)の日にち、曜日、誕生 日を言う 昨日、今日、明日 先週、今週、来週 先月、今月、来月 去年、今年、来年 の導入 C)「今日わたしは～へ行きます」 「明日わたしは～へ行きます」 「明日どこへ行きますか？」	片桐 優子	
16	令和4年2月1日(火) 16:30～18:30	2	特設会場	3	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)カタカナ B)昨日の復習 C)「どこへも行きません」 D)帰ります・来ますの導入	田中 由美子	
17	令和4年2月2日(水) 16:30～18:30	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)カタカナ「タ行」「ダ行」 B)昨日の復習 C)「行きます・来ます・帰ります」現在、現在 否定、過去、過去否定 D)「手段」で E)「どこへ」「なにで」「だれと」「いつ」「なんよ うび」「なんじごろ」疑問詞 F)「行きます」「来ます」「帰ります」を使って 文づくり(書き)	片桐 優子	
18	令和4年2月4日(金) 16:30～18:30	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)カナカナ「ア～タ行」の復習 B)カタカナ「ナ行」 C)既出し形容詞の復習 D)新出し形容詞 E)い形容詞 否定形 「おおきい」→「おおきくない」 F)い形容詞 過去形 「おおきい」→「おおきかった」 G)い形容詞 過去否定形 「おおきい」→「おおきくなかった」 H)ひょうげん・体の部位(P.56)/新出語彙意 味確認 I)会話2 J)プリントで活用確認・文作	黒川 亜矢子	
19	令和4年2月6日(日) 10:00～12:00	2	特設会場	3	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)カタカナ B)形容詞	田中 由美子	
20	令和4年2月7日(月) 16:30～18:30	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)カタカナ練習(マ行) B)イラストを使って、「これは高い時計です」 の導入 い形容詞、な形容詞、それぞれ練習 C)形容詞文に「とても、すこし、あまり」を 使って、話す練習 D)「日本語はやさしいですか？むずかしいで すか？日本語はどうですか？」の文を使っ て導入 E)「東京の印象はどうでしたか？」から「東京 は人が多いです」「東京は物価が高いです」 を導入 F)「新宿はにぎやかですか？静かですか？ うるさいですか？新宿はどんな街ですか？」 を導入 G)焼き芋の写真を見せて、「これはおいし いです。そして安いです」を導入。 H)体の部分を言う練習	片桐 優子	

21	令和4年2月8日(火) 16:30～18:30	2	特設会場	3	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)宿題チェック B)復習 C)動詞	田中 由美子	
22	令和4年2月9日(水) 16:30～18:30	2	特設会場	3	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)カタカナ練習(ラ行) B)動詞を使って文づくり C)「時間+に」を使って。「わたしの一日」を説 明する D)「毎日、いつも、時々、早い、遅い」を導入 E)「毎日勉強をしますか？」質問文を作る。 質問に答える。 F)動詞変形練習 G)「昨日勉強をしましたか？」過去の疑問 文を作る。質問に答える。 H)「曜日+に」の言い方	片桐 優子	
23	令和4年2月11日(金) 16:30～18:30	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)カタカナ「キャキュキョ～ウイ」 カタカナ言葉の練習(P.20-21) B)テキストP.61 言葉の復習・確認・発音 C)みずをのみます～シャワーをあびます。 の文で「を」の確認 D)時間の「に」「ごろ」「～から～まで」を確 認 E)N「が」はじまります/おわります を確認 F)「なにを/Nを」「どこで/Nで」「なにを」「だれ に/N(場所)に」「それから」を導入 G)テキスト「わたしのいちにち」の音読・意味 確認 練習帳P.50-51 H)L9文型「Nができます/できません」導入・ 練習	黒川 亜矢子	
24	令和4年2月13日(日) 10:00～12:00	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)宿題のチェック B)復習 C)カタカナの読み・書き D)動詞のグループ分け E)辞書形の作り方	田中 由美子	
25	令和4年2月14日(月) 16:30～18:30	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)文字学習 B)じしょのかたち1G～3G復習 C)「Nができます/dicformことができます」 「できますか?」「できます/できません」 D)「しゅみは名詞です/しゅみはdicformこと です」 「しゅみはなんですか?」 E)「Nがすきです/dicformことがすきです」 F)「Nがきらいです」 G)新しい言葉「野菜、果物」	片桐 優子	
26	令和4年2月15日(火) 16:30～18:30	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)宿題チェック B)カタカナ C)復習 「ことができます。」「趣味は何ですか。」「 D)「どんなくだものが好きですか。」「 E)上手です・下手です	田中 由美子	
27	令和4年2月16日(水) 16:30～18:30	2	特設会場	3	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)漢字学習「百、千」 B)宿題の確認をしながら、「好きです」「嫌い です」「趣味はNです」「趣味はdicform+こと です」の復習 C)「dicform+ことがじょうずです/へたです」 の復習 D)B、Cの表現の確認をしながら、dicformの 復習 E)野菜、果物、日本料理、動物のことばの 確認 F)てformに入る前に新しい動詞の導入 ～てください導入 G)てformの導入	片桐 優子	

28	令和4年2月18日(金) 16:30～18:30	2	特設会場	3	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)「かんじだいすき」P. 8－14 千・百確認 P.8「いくらですか」 ・漢字練習 「手・足・口・目・耳」 B)テキストL9文型の会話を使って「できます ／できません」「趣味は何ですか。」「～はす きですか」確認 C)L10文型 新しい言葉 読み合わせ・意味 確認 「かします・かります・かえます」「電車にの ります／電車をおります」確認 D)動詞グループ確認／て形ⅤⅡ復習 E)て形 ⅤⅢ導入、ⅤⅠ導入・作り方説明 F)て形ⅤⅠ・Ⅱ・Ⅲ変換練習 教科書の動詞 G)ⅤⅠ・Ⅱ・Ⅲ て形変換練習 絵カード・FC H)ⅤⅠ・Ⅱ・Ⅲ 練習帳P. 59変換練習書き I)「Vています」導入・練習、練習帳P.60 J)「知っています」「結婚しています」 練習帳L10文型 て形、1)2)①② まで ③「どうやって」未習 会話1)2)3)	黒川 亜矢子	
29	令和4年2月20日(日) 10:00～12:00	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)宿題確認 B)カタカナディクテ C)漢字復習と「上、下、中、左、右」 D)て形の復習 ～ています、～てください、どうやって	田中 由美子	
30	令和4年2月21日(月) 16:30～18:30	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)漢字学習「大、小、早、正」 B)「結婚しています」「知っています」質問す る、答える C)方法を聞く疑問詞「どうやって」に答える D)「～がほしいです」 E)「～がほしいですか?」「はい、ほしいで す」「いいえ、ほしくないです」 F)「今なにがほしいですか?」に答える	片桐 優子	
31	令和4年2月22日(火) 16:30～18:30	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)宿題チェック B)今日の漢字(赤、青、白) C)～がほしいです復習 D)～たいです	田中 由美子	
32	令和4年2月23日(水) 16:30～18:30	2	特設会場	3	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)宿題チェック B)今日の漢字(夕、天、気、日、月、空、) C)～たいです復習 D)～たいですか?はい、いいえ E)「なにを、どこへ、だれと」を使って、「たい です」 F)12課の新しい単語	片桐 優子	
33	令和4年2月25日(金) 16:30～18:30	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)漢字練習(～P.44まで/山・川・田・木・林・ 森まで) B)L12文型 新しい言葉の意味とアクセント を確認 C)文型1「Vてもいいですか」(許可を求め る) 導入・練習 「ええ、いいですよ。どうぞ/あの、ちょっ と…」 D)～から(理由)・どうしてですか E)文型2 Vない形 あいます→あわない	黒川 亜矢子	
34	令和4年2月27日(日) 10:00～12:00	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)宿題チェック(プリントP69) B)漢字(最後の1枚のまとめ問題) C)～てもいいですかの復習 D)～ないでください(かいわ2含む) E)「あげます」「もらいます」の導入	田中 由美子	
35	令和4年2月28日(月) 16:30～18:30	2	特設会場	5	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)宿題チェック(プリントP70) B)漢字(第8課) C)「ないでください」の復習 D)「ないでください」「どうしてですか?」「○ ○ですから」の復習 E)「あげます」「もらいます」の復習 F)第13課の新しい言葉の導入	片桐 優子	

36	令和4年3月1日(火) 16:30～18:30	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) 漢字9課 B) ～～～をに行きます	田中 由美子	
37	令和4年3月2日(水) 16:30～18:30	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) 漢字10課「貝、犬、虫、竹、草」 B) 「PlaceへNをVに行きます」の復習 C) 「～ませんか」誘う表現の導入、誘いに答 える C) 「Placeでeventがあります」の導入 D) 「だれと、どこで、なんじに会います」を 使った疑問文とその答え	片桐 優子	
38	令和4年3月4日(金) 16:30～18:30	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) 漢字L10文型、読みましょう・書きましょ う 11課 意味確認・書き練習 B) L13復習(練習帳) C) 「日時+場所 で Nがあります」復習+α D) 「いっしょに～ませんか。」(いつ・どこで・ なんじに) 復習と「どうですか」導入 E) 「なにが/どこで/何時に ありますか」 F) L13文型 会話(1)～(3) G) L14文型 新出語彙 H) 比較文 導入・練習 I) どちらが/～のほうが 導入・練習	黒川 亜矢子	
39	令和4年3月6日(日) 10:00～12:00	2	特設会場	5	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) 宿題チェック B) L11文型の問題 L12文型の漢字 C) 形容詞の復習 比較級の復習 最上級の導入、少し練習	田中 由美子	
40	令和4年3月7日(月) 16:30～18:30	2	特設会場	5	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) 宿題チェック B) L12文型の漢字 C) 「～の中で～が一番adjです」 D) 「なに/いつ/だれ/どこが 一番adjです か？」 「～が一番adjです」 E) 「もうご飯を食べましたか？」 「いいえ、まだです」「はい、食べました」 F) 「明日雨が降ると思います」 普通体の導入	片桐 優子	
41	令和4年3月8日(火) 16:30～18:30	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) 宿題の確認 B) 漢字L13文型 C) ①動詞と名詞の普通形の復習 ②シルエットクイズ ③形容詞の普通形 ④「～たいです。」「～がほしいです。」「～て います」の普通形	田中 由美子	
42	令和4年3月9日(水) 16:30～18:30	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) 宿題の確認 B) 漢字L14文型 C) 普通体の復習 動詞、形容詞、名詞の変形練習 D) 普通体: 文レベルでの変形練習 E) 普通体の会話 F) 新しいテキスト冒頭: 挨拶のことば G) L16文系新しい言葉	片桐 優子	
43	令和4年3月11日(金) 16:30～18:30	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) 宿題の確認 B) 漢字L14文型の問題 C) 「することができます」復習 D) 可能形の導入 E) 可能形の作り方	田中 由美子	
★	令和4年3月12日(土) 10:00～13:00		特設会場		—	受講者へのヒアリング(5名分)	—	コーディネート1名
44	令和4年3月13日(日) 10:00～12:00	2	特設会場	4	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) 漢字の復習 B) 可能形の復習 C) 可能形の文(否定形、よく・少し・全然) D) 見えます・聞こえます E) 駅・ごはん・友達ができます	田中 由美子	

45	令和4年3月14日(月) 16:30～18:30	2	特設会場	5	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A)可能形の疑問文、肯定、否定の答え B)状況の可能形 C)完成の「できます」 D)「なにが/いつ/どこにできますか？」疑問 文とその答え E)「見えます、聞こえます」復習	片桐 優子	
46	令和4年3月15日(火) 16:30～18:30	2	特設会場	3	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) 漢字の復習(読み) B)宿題の確認 C)しか	田中 由美子	
47	令和4年3月16日(水) 16:30～18:30	2	特設会場	5	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) 漢字テスト(読み、書き) B)理由と結果「～から」 C)逆説の「けど」: 節の前と後ろで逆のことを 述べる D)限定の「しか」復習 E)副詞「全然～ない」よくできること、少しで きること、あまりできないこと、全然できない ことの説明 F)L16のまとめ(テキストの確認)	片桐 優子	
48	令和4年3月17日(木) 16:30～18:30	2	特設会場	5	Ⅶ人とかかわる 14 他 者との関係を円滑にす る (31) 人と付き合う	A) 漢字練習 B)L17 あたらしいことば 意味確認・発音 確認 C)文型1 「Vじょ+まえに」導入・練習 「Nのまえに」導入・練習 D)文型2「Vてから」導入・練習 E)「そのまえに」「それから」導入・練習 F)練習帳P.14-15 G)テキスト 会話1 ペア練習・意味確認	黒川 亜矢子	
計		96		199				

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【日時】: 日本語教室(1)第18回 令和3年12月23日(木)9:00～11:00(池袋防災館)
【概要】: 防災体験
【目標】: 日本の災害について知ること、日本で何か起きた時に対処できるようにする。
【流れ】: 12月16日 事前学習(東日本大震災について知るetc)
12月23日 池袋防災館にて、AED、煙、消火器、地震の体験をする。
1月 6日 事後学習(防災館で体験したことを写真や映像を見ながら振り返る)
【教材・資料】: 自作プリント、防災館パンフレット



○取組事例②

【日時】: 日本語教室(1)第27回 令和4年1月20日(木)10:00～12:00
【概要】: 料理体験(手巻き寿司、味噌汁、漬物)
【目標】: 日本の食文化を知る。食材について知り、それがどこで、どのくらいの値段で売っているか知る。つくり方を知り、日本の食生活に慣れ親しむ。
【流れ】: 1月13日 事前学習(日本料理や調味料について知る、手巻き寿司や味噌汁について学び、実際作る際の材料をスーパーに行って探して買う。)
1月20日 調理実習
1月26日 事後学習(調理実習の写真を見ながら振り返る)
【教材・資料】: 自作プリント



(2) 目標の達成状況・成果

期間中に実施した以下のA～Cより目標達成状況・成果を検証する。

A) 受講者対象の個別ヒアリング(一部英語の通訳あり)

B) 受講者対象の振り返りアンケート

C) コーディネーター、指導者、指導補助者の観察

1. 「日本語教室への参加により、外国人住民(難民等)が日本人とのコミュニケーションをおそれず、自ら考え、行動できるような気持ちをもてるようになること。最低限必要な生活上の行為が達成できるようになること」について

→十分に達成されたと考える。学習者は学習をはじめた頃は、ほとんど日本語ができない状態だったが、学習を進めていくうちに日本の文化を知りながら、日本語で生活できるようになったと感じているようである。子どもであれば学校で他の子どもたちとコミュニケーションがとれるようになり自信が持てるようになったと感じているようだ。

2. 日本語教室での学びを通して、外国人住民(難民等)、先輩外国人住民、日本人住民が互いを尊重しあってコミュニケーションをとる楽しさを知り、日本社会の一員として共に暮らしていこうという意識をもてるようになることについて

→1. に書いたような事から達成されたと考える。本教室への参加が、受講者の日本語学習への扉を開き、その意欲を高めていること、その結果、教室内外での日本語学習が進み、日本社会で生きていく自信につながっていることが分かる。

(3) 今後の改善点について

導入期日本語教室(2022年1月～3月)ではアフガニスタンからの退避家族を対象に日本語教育を行ったが、大人と子どもの学習ペースや学習方法の嗜好、適切さなどの違いがあり、焦点をどこにおくかという難しさが見受けられた。今後、同様の状況が生じた場合、どのように学習を進めていくのが学習者、指導者に双方にとって負担が少なく、効果的なのか、検討する必要がある。

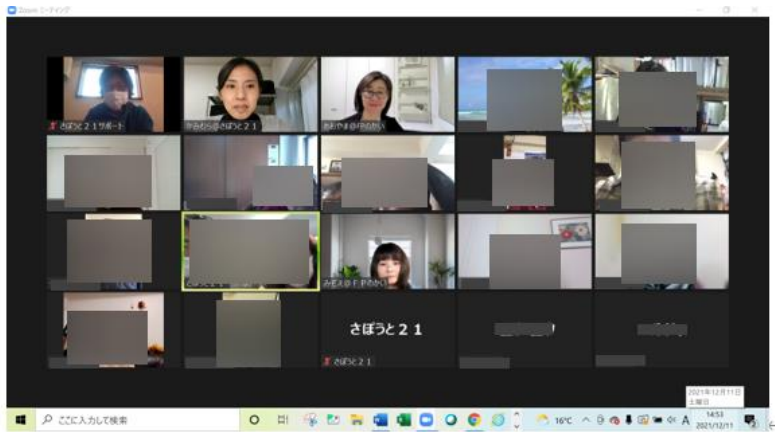
<取組2-2>【実施期間:令和 3年 12月 11日～令和 4年 1月 22日】			
取組の名称	生活力向上のためのワークショップ		
取組の目標	・日本語でのコミュニケーションに不自由を感じる段階にある外国人住民も含めて、生活上必要な情報や知識を知り、生活力を向上させることで、定住への備えをすること ・先輩外国人住民が通訳として講座に加わることで、生活上必要な情報や知識を正しく理解し、生活上のスキルを身につけて、それぞれのコミュニティのキーパーソンとして成長すること ・社会や人への関心をもち、理解を深めることで、日本語学習意欲を高めること		
取組の内容	●1 全体の構成 「WS」は「専門家による講義」とし、「やさしい日本語で書かれた資料」を用意する 「防災」、「身の周りのお金」をテーマとして実施 ※日本語力の有無に関係なく情報や知識、スキル等が学べ、意見が共有できるように、通訳付きとする ●2 講座時間等 原則として土曜日 13:00-15:00・2時間/回・全1回(計2時間)と、13:00-15:30・2.5時間/回・全2回(計5時間) ●3 使用教材 文化庁委託事業により作成された教材、作成する教材 ●4 その他 企画・準備段階から、先輩外国人住民(日本語能力試験N1合格者)複数名が情報提供側のメンバーとして参加し、学習者のニーズを広く掬い上げた		
空白地域を含む場合、空白地域での活動	—		
取組による体制整備	「専門家」と「外国人住民」をワークショップ実施によってつなげ、双方の理解を深めることで、ゆるやかなネットワーク構築を目指した。このことは、体制整備事業の中でも大切な要素であるとする。		
取組による日本語能力の向上	日本語能力の向上というより、外国人住民が、生活について学ぶことで、日本社会や日本語に理解を深め、一住民としての意識を高めるきっかけを提示している。		
参加対象者	当団体の土曜日の対面型・オンライン型の学習支援室に通う外国人	参加者数 (内 外国人数)	延べ34人(29人)
広報及び募集方法	主として当団体の教室参加者に向けて、メール、電話等で周知をはかった		
開催時間数	総時間 7時間(空白地域 時間)	1回 2時間 × 1回 = 2時間 1回 2.5時間 × 2回 = 5時間	
主な連携・協働先	NPO法人Wco.FPの会、NPO法人プラス・アーツ		

受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシ ア	ペルー	フィリピン	日本	計
											0
	※該当する場合のみ										
ミャンマー(12人)、エジプト(1人)											
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	令和3年12月11日(土) 13:00～15:30	2.5	オンライン	14名 (ミャンマー12 名、日本2名)	将来のための備え①	1. ライフプランを考えよう 2. 我が家のお金をチェックしよう 3. 夢をかなえるために貯蓄しよう 4. 質疑応答	NPO法人 Wco.FPの会 青山 雅恵	講義補助1名 通訳(指導補助)1名			
2	令和4年1月15日(土) 13:00～15:00	2	オンライン	7名 (ミャンマー6 名、日本1名)	防災	1. 災害時の警戒レベルを知ろう 2. 災害用伝言ダイヤル(171)を使え ようになろう 3. 災害用伝言板(web171)を使える ようになろう	NPO法人 プラス・アー ツ 小倉 文佳	通訳(指導補助)1名			
3	令和4年1月22日(土) 13:00～15:30	2.5	オンライン	13名 (ミャンマー10 名、エジプト1 名、日本2名)	将来のための備え②	1. 年をとった時について考えよう 2. 公的年金制度 3. 介護保険制度 4. 質疑応答	NPO法人 Wco.FPの会 溝江 淳子	講義補助1名 通訳(指導補助)1名			
計		7		34							

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【日 時】:第1回 令和3年12月11日
【テーマ】:将来のための備え①
【講 師】:NPO法人Wco.FPの会
【参加者】:14名(ミャンマー12名、日本人2名、その他1名)
【目 的】:ライフイベント表の作成を通して備えの必要性を理解し、将来への備え (貯金)に繋げることができるよう、意識と行動を高めるきっかけを提供したい
【内 容】:
1. ライフプランを考えよう
2. 我が家のお金をチェックしよう ※ライフイベント表を各自作成
3. 夢をかなえるために貯蓄しよう
4. 質疑応答
※途中、グループに分かれて、将来への備えで不安に思うことや、何か工夫していること等を話し合う時間を設けた
【実施方法】:ZOOMを用いたオンライン形式



○取組事例②

【日 時】:第2回 令和4年1月15日
【テーマ】:防災
【講 師】:NPO法人プラス・アーツ
【参加者】:7名(ミャンマー6名、日本人1名)
【目 的】:災害時に有効なコミュニケーションツールである「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」を知り、実際に使うことができるよう練習する
【内 容】:
1. 災害時の警戒レベルを知ろう
2. 災害用伝言ダイヤル(171)を使えるようになる
3. 災害用伝言板(web171)を使えるようになる
※災害用伝言ダイヤル、災害用伝言板の使い方の確実な習得のため、説明後は小さなグループに分かれて実際に電話をかける、伝言板にアクセスする時間を設けた
【実施方法】:ZOOMを用いたオンライン形式



(2) 目標の達成状況・成果

本講座の目標として掲げた以下3点について、各回のワークショップ終了時に行った講師や通訳者へのヒアリング、参加者によるアンケート回答の結果、またコーディネーターの観察をもとに達成状況・成果を判断する。

1. 日本語でのコミュニケーションに不自由を感じる段階にある外国人住民も含めて、生活上必要な情報や知識を知り、生活力を向上させることで、定住への備えをする
外国人住民の関心の高い「お金」と「防災」をテーマに取り上げた。ワークショップ参加者の多くがミャンマー出身であることに配慮し、ビルマ語通訳を配備したことで、日本語レベルに左右されることなく、正しく理解することを実現できたと考える。通訳者は何年にも亘り、当団体のワークショップにて通訳を担っており、知識の乏しさゆえに理解できていない参加者には個別のフォローを入れる等、きめ細かな対応が出来ていると考える。

2. 先輩外国人住民が通訳として講座に加わることにより、生活上必要な情報や知識を正しく理解し、生活上のスキルを身につけて、それぞれのコミュニティのキーパーソンとして成長する
通訳者として関わってもらった方は講座資料の事前確認や講師との打ち合わせ、事後の振り返りを通して、知識の定着が図れている。また、通訳者に限らず、回数を重ねて実施している「お金」「防災」をテーマとしたワークショップに関しては、毎回欠かさず参加している学習者もあり、そういった方を通して、正しい知識が彼ら彼女らが属する外国人コミュニティにも広がっていると考ええる。

3. 社会や人への関心をもち、理解を深めることにより、日本語学習意欲を高めること
新型コロナウイルス感染症の収束の目途が立たない状況下において、対面型の教室活動が縮小しているため長らく日本語学習がストップしてしまった学習者もいる。当該事業で実施するワークショップへの参加をきっかけとして日本語学習の必要性を再認識し、オンラインでの学習参加希望の問い合わせ等があり、日本語学習への意欲の高まりに繋がったと考える。

上記に加えて、オンライン形式でのワークショップは2年目となるが、内容に応じてディスカッションの時間を設けたり、ブレイクアウトルームの個別の部屋に誘導したりといったことがスムーズに出来ていることについても一つの成果であると考ええる。

(3) 今後の改善点について

今後の改善点は以下の通りである。

1. 取組内容について、外国人住民のニーズを常に意識しながら必要となるテーマを取り上げる
年度の始めにワークショップの内容を企画する際、通訳者や当事者にヒアリングを行っているが、ニーズが高いテーマを今後も取り上げていくことができるよう、定期的にヒアリングの場を設けていきたい。

2. 実施体制について、対応できる通訳者の層を広げていく
通訳者が固定化できていることは知識の更なる高まりに寄与できると考えるが、他の通訳者の育ちには繋がりにくい。特に、若い層向けのワークショップも今後企画していきたいと考えるため、若い層の通訳者の育成が必要である。

3. 当会に蓄積されているワークショップ実績を他地域においても提供していく
当事者団体や外国人支援団体、地域の国際交流協会等との協働・連携を通して、今まで行ってきた様々なワークショップを外部でも実施していきたいと考える。外部で講座を開催することを通して、より多くの外国人住民に正しく必要な情報を伝えることができると考える。

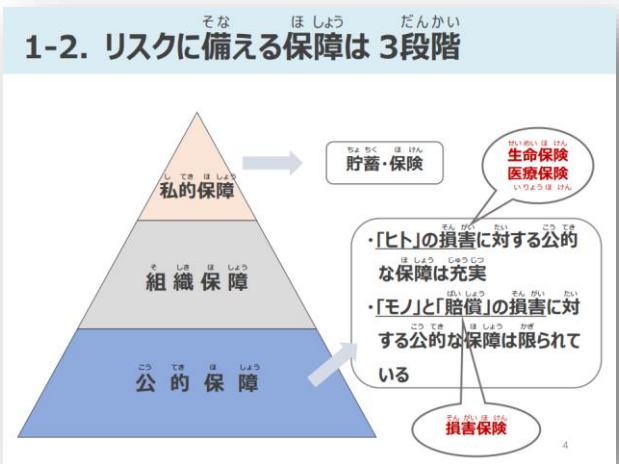
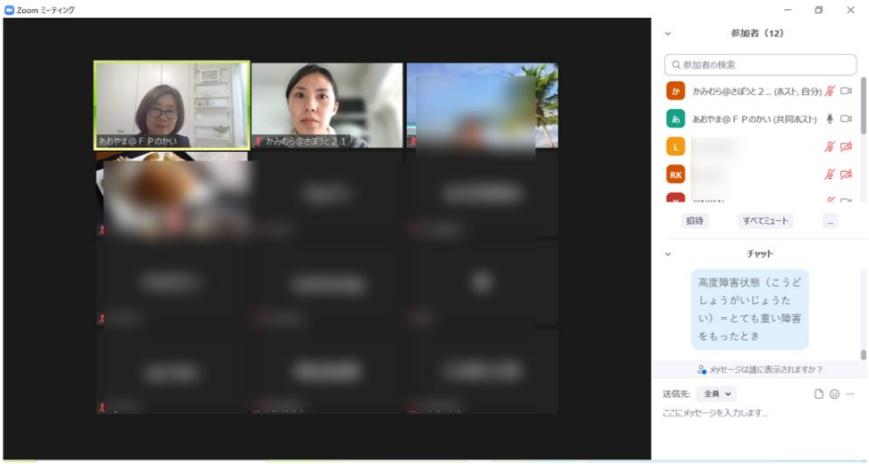
＜取組2-4＞【実施期間:令和 3年 12月 18日～令和 4年 3月 12日】											
取組の名称		生活力向上のための勉強会									
取組の目標		日本語での読み書きがある程度できる外国人住民を主な対象として、年金、保険、税金など生活に有益な情報を深く学ぶ勉強会を行う。									
取組の内容		●1 全体の構成 様々な教室でキーパーソンの役割を果たす外国人住民が集い、「年金」「税金」「貯蓄」「保険」など生活に関連する様々な項目について共に深く学び、理解を深め、それに伴って必要とされる日本語を習得した。項目の中に防災や医療のテーマも加えて実施。 ※外国人住民だけでなく、日本人住民で関心のある方も参加可能とした。 ●2 講座時間等 土曜日 13:00-15:00・2時間/回 × 10回(計20時間) ●3 使用教材 講師が作成した教材									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動	—									
取組による体制整備		「専門家」と「外国人住民」をワークショップ実施によってつなげ、双方の理解を深めることにより、ゆるやかなネットワーク構築を目指した。このことは、体制整備事業の中でも大切な要素であると考え。とくにB1以上の日本語力をもつ外国人住民を対象に行った勉強会である点は、体制整備を進める際に、注目できる点ではないかと考える。									
取組による日本語能力の向上		生活に関して大切なことがらを非常に深く学ぶ勉強会であった。受講者全てが資料の読み取り、講師の説明の理解を進める際、新しい語彙、表現を積極的に学んでいた。また、受講者間での質疑応答も全て日本語で行われており、さらに日本語習得の意欲を高めていた。									
参加対象者		当団体内に限らず、日本語での日常生活において日本語の読み書きに困らない人で、本勉強会に関心のある外国人住民					参加者数 (内 外国人数)		延べ99人(98人)		
広報及び募集方法		主として当団体の教室参加者に向けて、メール、電話等で周知をはかるとともに、外国人住民とつながりのある地域の国際交流関係者にメーリスを流すことで該当者への声掛けをお願いした									
開催時間数		総時間 20時間(空白地域 時間)				内訳 2時間 × 10回 = 20時間					
主な連携・協働先		NPO法人Wco.FPの会									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
	6			1				1		1	9
※該当する場合のみ		マレーシア(1人)、ミャンマー(4人)									
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	令和3年12月18日(土) 13:00～15:00	2	オンライン	9名 (中国4、ベトナム1名、ミャンマー3名、日本1名)	将来のための備え	ライフイベント表やキャッシュフロー表を作ってみよう	NPO法人 Wco.FPの会 青山 雅恵				
2	令和4年1月8日(土) 13:00～15:00	2	オンライン	7名 (中国3、ベトナム1名、ミャンマー3名)	公的医療保険	公的医療保険(公的介護保険を含む)について知ろう	NPO法人 Wco.FPの会 青山 雅恵				
3	令和4年1月15日(土) 10:00～12:00	2	オンライン	7名 (中国3、ベトナム1名、ミャンマー3名)	公的年金制度	公的年金制度について知ろう	NPO法人 Wco.FPの会 青山 雅恵				
4	令和4年1月29日(土) 13:00～15:00	2	オンライン	8名 (中国4、ミャンマー4名)	民間の保険	民間の生命保険や医療保険、損害保険に加入する前に知っておきたい保障の考え方、必要保障額などを知ろう	NPO法人 Wco.FPの会 青山 雅恵				
5	令和4年2月5日(土) 13:00～15:00	2	オンライン	9名 (中国5名、ミャンマー4名)	税金	税金(所得税や住民税など)について基本的なことを学ぼう	NPO法人 Wco.FPの会 溝江 淳子	見学者1名			

6	令和4年2月12日(土) 13:00～15:00	2	オンライン	9名 (中国6名、ミャンマー3名)	住まいに関すること	住まいに関すること(住宅資金、チラシの見方、購入や賃貸契約時のルール)について学ぼう	NPO法人 Wco.FPの会 青山 雅恵	
7	令和4年2月19日(土) 13:00～15:00	2	オンライン	13名 (中国6名、ベトナム1名、ペルー1名、マレーシア1名、ミャンマー4名)	子育てに関するお金	子育てに関するお金(教育資金)について学ぼう	NPO法人 Wco.FPの会 青山 雅恵	
8	令和4年2月26日(土) 13:00～15:00	2	オンライン	13名 (中国6名、ベトナム1名、ペルー1名、マレーシア1名、ミャンマー4名)	年をとった時に必要となるお金	年をとった時に必要となるお金(老後資金)について学ぼう	NPO法人 Wco.FPの会 青山 雅恵	
9	令和4年3月5日(土) 13:00～15:00	2	オンライン	12名 (中国5名、ペルー1名、ミャンマー4名)	資産運用	資産運用とは、単利と複利、iDeCoとNISAについて知ろう	NPO法人 Wco.FPの会 溝江 淳子	見学者1名
10	令和4年3月12日(土) 13:00～15:30	2	オンライン	12名 (中国6名、ペルー1名、マレーシア1名、ミャンマー4名)	保険証券 質疑応答	保険証券の見方、その他質疑応答	NPO法人 Wco.FPの会 青山 雅恵	見学者1名
計		20		99				

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

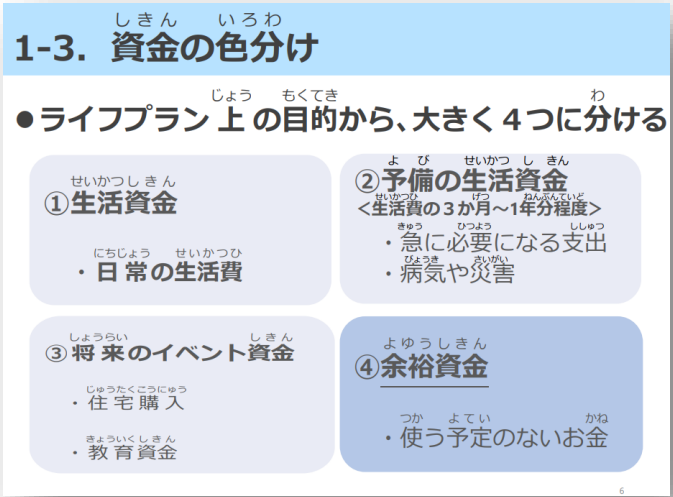
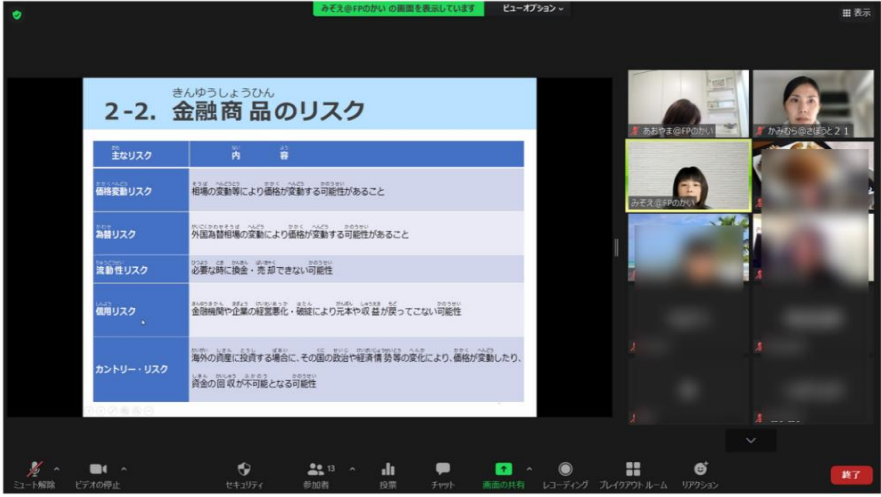
○取組事例①

【日 時】:第4回 令和4年1月29日
【テーマ】:保障について～生命保険、医療保険、損害保険の基礎を知ろう～
【講 師】:NPO法人Wco.FPの会
【参加者】:8名(中国4、ミャンマー4名)
【目 的】:民間の生命保険や医療保険、損害保険に加入する前に知っておきたい保障の考え方、必要保障額などを知ること、保険加入を適切に判断するための知識を得る
【内 容】:
1. 保障(保険)の考え方
2. 生命保険～基本的な考え方、必要保障額
3. 生命保険の種類と保障の見直し
4. 医療保険
5. 損害保険～住まい・車の保険と個人賠償責任保険
【実施方法】:ZOOMを用いたオンライン形式



○取組事例②

【日 時】:第9回 令和4年3月5日
【テーマ】:資産運用について～金融商品の基本～
【講 師】:NPO法人プラス・アーツ
【参加者】:12名(中国5名、ペルー1名、、ミャンマー4名)
【目 的】:資産形成、資産運用の基本を学び、着実に賢く将来必要な資産をつくるための知識を得る
【内 容】:
1. ライフプランと資金計画
2. 資産運用の基本
3. 確定拠出年金
4. NISA
【実施方法】:ZOOMを用いたオンライン形式



(2) 目標の達成状況・成果

本講座の目標として掲げた以下の点について、各回のワークショップ終了時に行った講師へのヒアリング、参加者によるアンケート回答の結果、またコーディネーターの観察をもとに達成状況・成果を判断する。

1. 日本語での読み書きがある程度できる外国人住民を主な対象として、年金、保険、税金など生活に有益な情報を深く学ぶ勉強会を行う
文化庁委託事業の中で従来より行ってきたワークショップにおいても、「身の周りのお金」をテーマとした内容は幾度も取り上げてきたが、今回は一つ一つの内容を更に深堀し、また新しいトピックも加えて実施することができた。毎回、勉強会終了後にはアンケートを実施し、参加者の関心どころやニーズについて講師と協議し、その都度次回の勉強会の内容を組み立てていくというプロセスを取ったため、参加者の学びたい内容に概ね応える形で実施できたのではないかと考える。全10回の勉強会のうちでも、特に参加者数の多かった“老後資金”をテーマとした回では以下回答があり、生活に関わる情報を学ぶことに喜びを感じる参加者の声を聞くことができた。
「老後のいい生活のため、若いうちに老後資金を備えなければならないことがよく理解できました。大変勉強になりました。」(中国出身 40代女性)
「今日は老後資金に関する内容でした。正直、こういうことはあまり考えたことがなかったです。今日の勉強会に参加して、老後資金はみんなの生活に関わるすごく重要なことで、早く理解して準備したほうがいいことが分かりました。」(ペルー出身 30代女性)

また、参加者からの最終アンケート結果では、以下回答を得ており、日本で生活する上で“知っておくべき”内容を提供した勉強会になったと考える。
「10回の授業があつという間に終わってしまいました。大変勉強になりました。授業内容はざっくりですが、我々外国人が日本で生活するためにとても役にっている内容ばかりでした。今後、もしこのような授業があるならば、また参加したいです。」(中国出身 50代女性)
「今まで学んだことをコツコツと復習して将来の人生目標を立て直して行きたいと思います。」(ミャンマー出身 40代女性)

上記より、掲げた目標に対しては十分に達成できたと考えており、またその他の特徴的な成果として、今回の勉強会では、回を重ねるごとに参加者が増えていったという点を挙げることができる。すでに受講していた方が知人に声をかけ、知人が新たな受講者として参加するといったことが続いたことや、チラシを見た地域の国際交流協会関係者が外国人相談に携わる外国人スタッフに声をかけて参加するといった例も見られた。このことから、本勉強会での内容は、外国人住民にとってニーズの高いものであったと考える。

(3) 今後の改善点について

今後の改善点は以下の通りである。

1. 取組内容について

生活に直接的に関わる内容で、学びの幅も広く、アンケート回答の結果からも非常に充実した内容であったと評価している。今回は、ある程度の日本語力をもつ外国人住民を対象とした勉強会となったが、日本語レベルに関係なく多くの外国人住民に必要な知識であることを実感しており、今後実施する際には通訳者も配置された勉強会を企画運営していきたいと考える。また、それとは別に日本語力の高い外国人住民を対象として、同様の勉強会を継続的に実施していくことは必要であると感じており、20代・30代を中心とした若者世代向け、40代以上の中堅世代向けの実施も検討していく。

2. 実施体制について

当事者団体や外国人支援団体、地域の国際交流協会等との協働・連携を通じて、一人でも多くの外国人住民に学びの場を届けることができるようにしていきたい。当団体が間に入らなくても企画・実施できるようこういった勉強会がパッケージ化していると便利であると考えている。

＜取組4＞【実施期間:令和 4年 3月 8日～令和 4年 3月 17日】	
取組の名称	地域日本語教室ボランティアのための活動基礎講座
取組の目標	・コロナ禍にあっても日本語学習支援が活発に行われるよう、オンライン学習支援のスキルアップをはかり、新たな活用方法を知ること ・地域日本語教室で活動する日本語学習支援者のゆるやかなネットワークをつくること ・講座の実施により、教室は違えど、同じ地域日本語教室で活動する仲間として共に学び、考えあう機会を得ると同時に、「地域日本語教室を外国人住民の防災学習の拠点に」という本事業への理解者、協力者を増やすこと

取組の内容		地域日本語教室ボランティアのための活動基礎講座（以下「活動基礎講座」と記す） ●対象 日本語教室のボランティアに関心のある方、活動を始めたばかりの方 ●講座時間等 【特別講座】 10:00-12:00 2時間 【本編】 10:00～12:00・2時間／回・全5回 計10時間 同じ内容の講座を 13:00～15:00・2時間／回・全5回 計10時間 ●全体の構成・内容 【特別講座】講義:「著作権」とは？ オンライン日本語支援で課題としてあがることの多い「教材の共有」「画面共有」について、著作権の視点から理解を深める 【本編】 ・オンライン日本語支援のスキルアップを図る ・オンラインで利用しやすい教材やその活用方法を知る ●その他 ・本編実施にあたり、広報の段階で内容を具体的に記し、参加者の期待と団体側が提供する内容の不一致を避けた ・オンライン日本語支援を前面に出しつつ、語り合うことの楽しさ、協働の面白さ、日本語学習支援の広がりを実感できるような構成とした									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動	—									
取組による体制整備		空白地域はもとより、学習時間の限られる学習者、移動が制限される学習者にとって、オンラインによる日本語支援は非常に有益なものである。体制整備に大きく貢献している。									
取組による日本語能力の向上		本取組は、「日本語学習支援者」育成の取り組みであることから、直接外国人住民の日本語力向上に資するものではないが、外国人住民のニーズや求めに配慮できる日本語学習支援者が増えていくことは、外国人住民の日本語習得に大きく貢献するであろう									
参加対象者		地域日本語教室で日本語学習支援の活動を行っている方 提示したスキル習得が可能である方				参加者数 (内 外国人数)		延べ172人			
広報及び募集方法		1 東京日本語ボランティア・ネットワーク(TNVN)、埼玉日本語ネットワーク、房総多文化日本語ねっと等のメーリングリストでの案内 2 過去の研修会参加者などへのメールでの案内									
開催時間数		総時間 22時間(空白地域 時間)				内訳 【本編】1回 2時間/回 × 5回 = 10時間 × 2回 = 20時間 【特別講演】1回 2時間/回 × 1回 = 2時間					
主な連携・協働先		福岡教育大学、東京都、埼玉県、千葉県内の日本語教室									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
										49	49
※該当する場合のみ											
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
*	令和4年3月13日(日) 10:00～12:00	2	オンライン	24	「著作権」とは？	* 著作権制度の全体像 * 著作物を利用するには * 自由利用マーク * 著作権等の集中管理 * 「目に見えない権利」について考えてみる	大和 淳	講義補助1名			
1	令和4年3月8日(火) 19:00～21:00 【本編】	2	オンライン	11	オンライン日本語支援 ZOOM基礎編1 コンテンツ紹介「つながるひろがる日本語でのくらし」(文化庁)	* ミーティングに参加して、さまざまなツールを使いこなすことができるようになる - ブレイクアウトルームに参加 - 画面表示を使い分ける - 画面共有をする - チャットに送られたファイルをダウンロードする * オンラインで使える日本語学習WEBサイトを紹介／「つながるひろがる にほんごでのくらし」(文化庁)	有田 玲子	講義補助1名			

1	令和4年3月9日(水) 10:00～12:00 【本編】	2	オンライン	13	オンライン日本語 支援 ZOOM基礎 編1 コンテンツ紹介「つ ながるひろがる日 本語でのくらし」(文 化庁)	* ミーティングに参加して、さまざまなツール を使いこなすことができるようになる - ブレイクアウトルームに参加 - 画面表示を使い分ける - 画面共有をする - チャットに送られたファイルをダウンロード する * オンラインで使える日本語学習WEBサイト を紹介／「つながるひろがる にほんごでのく らし」(文化庁)	野田 美保	講義補助1名
2	令和4年3月10日(木) 10:00～12:00 【本編】	2	オンライン	17	オンライン日本語 支援 ZOOM基礎 編2 コンテンツ紹介「ひ ろがる」国際交流 基金	* 画面共有を使って、資料を見せたり、相手 の資料を見たりすることができるようになる - チャットから保存したファイルを確認する - 資料を画面共有する - 自分の手元の資料を見せる - 相手の手元の資料を見る - 情報を共有する * オンラインで使える日本語学習WEBサイト を紹介／「ひろがる」国際交流基金	有田 玲子	講義補助1名
	令和4年3月13日(日) 19:00～21:00 【本編】	2	オンライン	15	オンライン日本語 支援 ZOOM基礎 編2 コンテンツ紹介「ひ ろがる」国際交流 基金	* 画面共有を使って、資料を見せたり、相手 の資料を見たりすることができるようになる - チャットから保存したファイルを確認する - 資料を画面共有する - 自分の手元の資料を見せる - 相手の手元の資料を見る - 情報を共有する * オンラインで使える日本語学習WEBサイト を紹介／「ひろがる」国際交流基金	野田 美保	講義補助1名
3	令和4年3月14日(月) 10:00～12:00 【本編】	2	オンライン	17	オンライン日本語 支援 ZOOM基礎 編3 Googleアプリ活用 法	* 画面共有された資料に書き込むことがで きるようになる - ホワイトボード機能を使う - 画面共有されたPDFに書き込む * チャットを使って資料を送信することがで きるようになる * Googleアプリの活用法を紹介します。	有田 玲子	講義補助1名
	令和4年3月14日(月) 19:00～21:00 【本編】	2	オンライン	18	オンライン日本語 支援 ZOOM基礎 編3 Googleアプリ活用 法	* 画面共有された資料に書き込むことがで きるようになる - ホワイトボード機能を使う - 画面共有されたPDFに書き込む * チャットを使って資料を送信することがで きるようになる * Googleアプリの活用法を紹介します。	野田 美保	講義補助1名
4	令和4年3月15日(火) 10:00～12:00 【本編】	2	オンライン	10	オンライン日本語 支援 ZOOMホスト 編1 アプリ活用法	* ホストとしてミーティングをはじめることが できるようになる - ミーティングの予約 - ミーティングに招待する - ミーティングを開始する * 便利なアプリの活用法を紹介	有田 玲子	講義補助1名
	令和4年3月15日(火) 19:00～21:00 【本編】	2	オンライン	16	オンライン日本語 支援 ZOOMホスト 編1 アプリ活用法	* ホストとしてミーティングをはじめることが できるようになる - ミーティングの予約 - ミーティングに招待する - ミーティングを開始する * 便利なアプリの活用法を紹介	野田 美保	講義補助1名

5	令和4年3月16日(水) 10:00～12:00 【本編】	2	オンライン	19	オンライン日本語 支援 ZOOMホスト 編2 Google Drive活用 法	* ホストとしてアカウントの設定の確認が できるようになる * ホストとして参加者の役割を変更するこ とができるようになる * ホストとしてブレイクアウトルームを作るこ とができるようになる -ブレイクアウトルームの設定 * GoogleDriveの使い方を紹介	有田 玲子	講義補助1名
	令和4年3月17日(木) 19:00～21:00 【本編】	2	オンライン	12	オンライン日本語 支援 ZOOMホスト 編2 Google Drive活用 法	* ホストとしてアカウントの設定の確認がで きるようになる * ホストとして参加者の役割を変更するこ とができるようになる * ホストとしてブレイクアウトルームを作るこ とができるようになる -ブレイクアウトルームの設定 * GoogleDriveの使い方を紹介	野田 美保	講義補助1名
計		22		172				

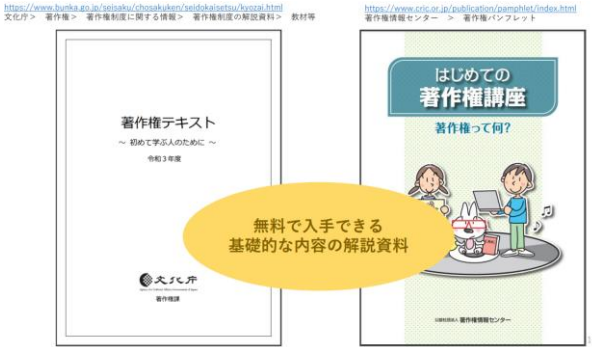
(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【特別講演 令和3年3月13日】

- 1 講義(主な内容)
- ・著作権制度の全体像
 - ・著作物を利用するには
 - ・クリエイティブ・コモンズ
 - ・自由理由マーク
 - ・個々の事業者の利用規定
 - ・著作権等の集中管理
 - ・「著作権者の権利」の例外
 - ・「目に見えない権利」について考えてみる

2 質疑応答

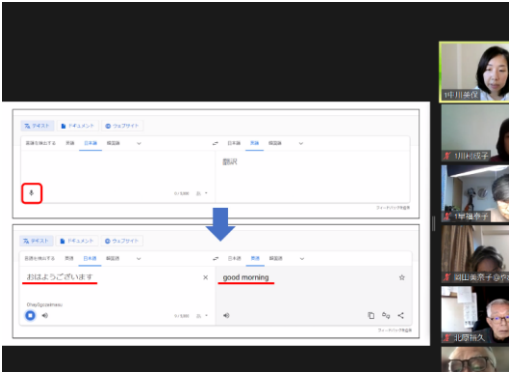


○取組事例②

- 【第1回 令和3年3月8日】
- 事前に提示した目標「ミーティングに参加して、さまざまなツールを使いこなすことができますようになります」
 - 内容
 - *ミーティングに参加して、さまざまなツールを使いこなすことができますようになります。
 - ーブレイクアウトルームに参加
 - ー画面表示を使い分ける
 - ー画面共有をする
 - ーチャットに送られたファイルをダウンロードする
 - *オンラインで使える日本語学習WEBサイトを紹介します。／「つながるひろがる にほんごでのくらし」文化庁

基礎編1ーできるようになること

- Step1
- ☐ ブレイクアウトルームへの移動・退出
 - ☐ ブレイクアウトルーム間を自分で移動
 - ☐ 左右表示モードの切り替え
 - ☐ 共同ホストになって画面共有をする(音声の共有を含む)
 - ☐ チャットに送られたファイルをダウンロードする
- Step2
- ☐ 「つながるひろがる にほんごでのくらし」(文化庁)を使って、実際の操作をブレイクアウトルームの中で体験する。



(2) 目標の達成状況・成果

本講座の目標として掲げた以下の点について、各回終了時に参加者を対象に行ったアンケート回答の結果、また講師の観察をもとに達成状況・成果を判断する。

- ・コロナ禍にあっても日本語学習支援が活発に行われるよう、オンライン学習支援のスキルアップをはかり、新たな活用方法を知ること
⇒参加時点でのスキルがまちまちではあるが、参加者各人の満足度は非常に高かった
- ・地域日本語教室で活動する日本語学習支援者のゆるやかなネットワークをつくること
⇒目標達成の過程において自然にコミュニケーションがはかられ、連帯感のようなものが生まれていた
- ・講座の実施により、教室は違えど、同じ地域日本語教室で活動する仲間として共に学び、考えあう機会を得ると同時に、「地域日本語教室を外国人住民の防災学習の拠点に」という本事業への理解者、協力者を増やすこと
⇒内容が多岐にわたり、また、参加者によっては、そのスキル習得のみが関心事となってしまった

(3) 今後の改善点について

- ・オンライン日本語支援のスキルアップをはかるためには、参加者の備えている知識や情報、スキルができるだけ同じ程度であることが望ましいが、広く参加者を募った場合には、その程度のばらつきが大きい。今回、参加者募集の際に、主催者側から具体的な目標を示してみたが、結果的にはスキルの程度はばらばらであった。
- ・スキル習得に気持ちが向かってしまい、参加者に伝えたい「日本語教室の展開の多様さ」は伝えることはできなかった

＜取組5＞【実施期間:令和 3年 6月 11日～令和 4年 3月 8日】	
取組の名称	「防災日本語紙芝居」の改訂、増補
取組の目標	・地域日本語教室が防災学習の拠点として機能するために必要な教材をより良い形で提供し、地域日本語教室での活用を促す ・外国人住民による紙芝居の動画化、ホームページ掲載により、より活用しやすいコンテンツとする

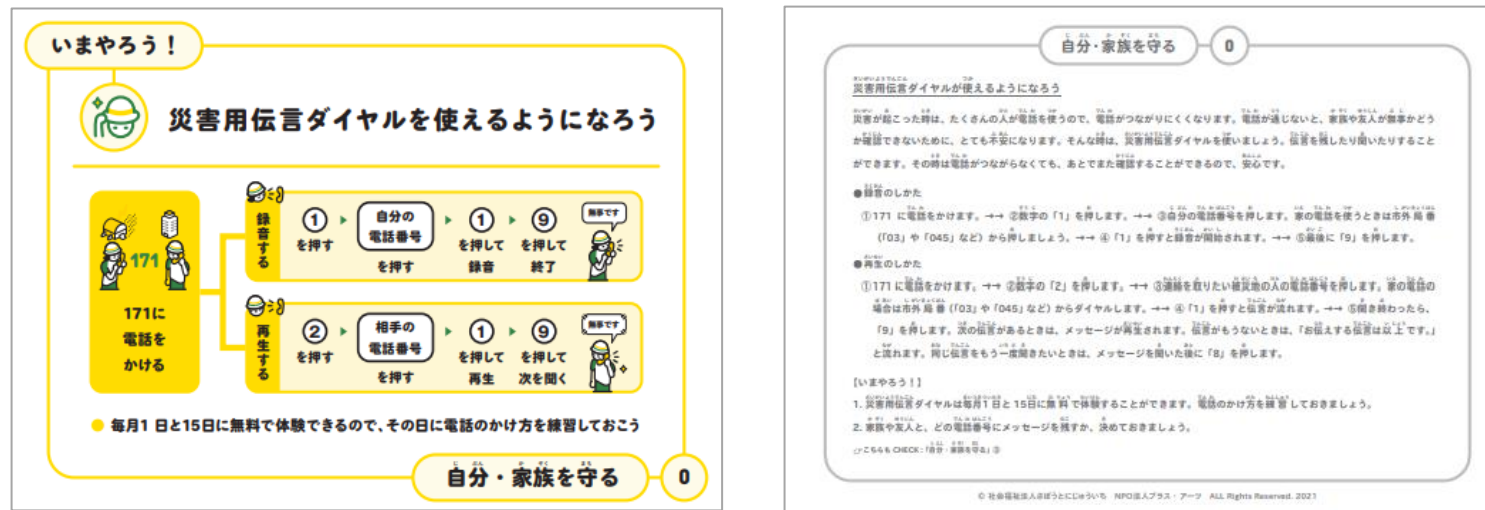
取組の内容		1 外国人住民のための「本気で防災紙芝居型日本語教材」の作成 ●地域日本語教室で使いやすいよう、「毎回」「10分程度で」「1回1項目」、「紙芝居型教材」を基本とした教材 ●1項目 A3カード(両面)×10テーマ作成 ●表面は、文字を少なくし、わかりやすいイラストで、印象に残ることを優先させた ●裏面は、日常生活で日本語を使ってやりとりができる程度の外国人を想定して、やさしい日本語で表現することを心掛け、テキストは全てひらがなのルビをふった ●「本気で防災紙芝居型日本語教材」(2019年度事業で作成)を実際に利用した方々からのフィードバックをもとに、改訂、追加作成の内容を、防災の専門家である(特非)プラス・アーツと検討した ●扱った項目 <生活を守る> ①ローリングストック法をやってみよう <コミュニティを守る> ①身の周りのものでできる止血の方法を覚えよう ②身の周りのものでできる骨折の手当の方法を覚えよう <自分・家族を守る> ①災害用伝言ダイヤルを使えるようになろう ②災害用伝言板を使えるようになろう ③大雨のときの避難のタイミングを知ろう ④日本で起こる災害の種類を知ろう ※2019年度・2020年度制作分と合わせると、合計37テーマを作成済。 (内訳は次の通り。「自分・家族を守る」: 18テーマ、「生活を守る」: 15テーマ、「コミュニティを守る」: 4テーマ) 2 1の教材を含む、さぼうと21が行ってきた防災関連ワークショップ等をまとめた資料の作成									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動	—									
取組による体制整備		日本人住民にとっても外国人住民にとっても扱いやすい防災についての「日本語教材」が作成されたことにより、地域日本語教室の参加者が防災学習に取り組みやすくなった。今後さらに、防災の学びが有効に進み、「地域日本語教室の拠点的機能の充実」がはかれ、「防災をめぐる地域日本語教育のネットワークの構築」が大きく進むことが期待される。									
取組による日本語能力の向上		毎回教室で、同じテーマについて連続して学べる教材ができたことで、「防災」についての日本語習得が進み、さらにそのテーマについて、日本人住民と外国人住民との間のやりとりが促進された。また、教室に通学ができない状況にある外国人住民も、「防災」という「必要情報」がわかりやすく提供されることで、日本語習得の意欲を大いに高めた。									
参加対象者		—				参加者数 (内 外国人数)		—			
広報及び募集方法		作成した教材を当団体のホームページで公開することにより、普及をはかっている オンラインスキルアップ講座を通じ周知を進めた									
開催時間数		(総時間 時間) 教材をどのように利用するかで、要する時間数は変わる (例)10分×7テーマ分=70分～				(内訳 1回 10分 × 7 回)					
主な連携・協働先		(特非)プラス・アーツ									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
											0
※該当する場合のみ											
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

・(特非)プラス・アーツとの協働により教材作成を進める過程で、防災検定資格をもつ関係者や外国人住民の意見もうかがいながら、紙芝居で扱うテーマ、掲載する情報についての検討を重ねた。裏面の日本語表現については、現役の日本語教師、日本語教育に従事していた方にも複数回にわたってチェックしてもらい、理解しやすい日本語表現にて記載した。

以下は、完成した教材の表面と裏面である。



(2) 目標の達成状況・成果

・予定していた7枚の紙芝居が完成した。昨年度より、日本語教材掲載用のサイトを刷新したが、今後そちらに追加掲載する予定である。
<https://support21.or.jp/ouractivities/learning-program/top-page/saigai/>
<https://support21.or.jp/ouractivities/learning-program/top-page/sankagata-kouza/>
※2022年4月末までに公開予定

・(特非)プラス・アーツとの協働作業を通して、様々な防災活動の手法を学べたというだけでなく、プラス・アーツの方々に、外国人住民がどのような困難を抱えているのか、また、多少日本語ができる外国人の方々にとって、どのような日本語が難しいのかについてさらに理解を深めていただけた。防災に関する啓発活動は、日本人住民のみならず外国人住民向けにも必要な分野であるため、防災分野の専門家集団であるプラス・アーツの方々の日頃の活動(防災啓発活動)においても有効な協働となったと考えるし、今後も継続的に当該団体と連携しながら、外国人住民のための講座の開催や教材の作成を行っていきたい。

(3) 今後の改善点について

何人かの方からは「そもそも文字を読もうとしない外国人も多い」との指摘を受けているため、紙芝居の音声化を今後の課題として捉えており、音声化することでより多くの外国人住民に紙芝居を知ってもらいたいと考えている。コロナ禍で、活動を中止している日本語教室も多いと聞くため、紙芝居の音声化ができれば、オンラインでも使える教材として多用してもらえると考えるため、実現に向けて取り組んでいきたい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

【目的】

本事業の目的は、地域日本語教室を難民等外国人住民の「防災」日本語学習の拠点として位置づけ、「防災」に関する日本語学習をきっかけに、地域日本語教室、外国人コミュニティ、外国人支援団体、自治体等をつないだ日本語教育のネットワークの構築を進めていくことである。自助共助の意識を強くもった外国人住民・日本人住民が地域日本語教室で共に育っていくことを期待している。

【今年度の目標】

- 令和元年度から作成している「本気で防災を学ぶ紙芝居型日本語教材」(以下「防災日本語紙芝居」)の追加(最終)作成、動画化、普及を進める
- オンラインも含めた教室活動の中に「防災」を無理なく取り入れた地域日本語教室のモデルを提示する。
- 「防災」を教室活動に積極的に取り入れる意識をもった「担い手(日本語学習支援者)」を育成する
- 「防災-外国人住民-日本語-日本語教室」の重要性を認識し、そのような視点で「地域日本語教室」の有用性を理解する人を増やす
- 「本気で防災日本語紙芝居」の普及活動を通じて、地域日本語教室、外国人コミュニティ、外国人支援団体、自治体等のゆるやかなネットワークの構築を進める

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

【目的】

- 地域日本語教室を難民等外国人住民の「防災」日本語学習の拠点として位置づけることができたか。
⇒ワークショップ、日本語教室等でのアンケート、ヒアリングの結果、コーディネーターの観察などから、当団体内に限定すれば、日本語教室が外国人住民の「防災」日本語学習の拠点として位置づけられたと評価できる。外国人参加者の防災・減災リテラシー、防災・減災への備えの程度などは、この数年で著しく進んだ。しかし、他の地域日本語教室について、「防災」日本語学習の拠点として位置づけるに状況には達していない。
 - 地域日本語教室、外国人コミュニティ、外国人支援団体、自治体等をつないだ日本語教育のネットワークの構築は進んだか。
⇒日本語教室や生活勉強会の実施にあたっては、その周知の段階を含めて、外国人住民とのつながりが生まれ、活動基礎講座実施に当たっては、地域日本語教室の日本語学習支援者、主催団体(国際交流協会等)とのつながりが生まれているが、ネットワークの構築には至っていない。
- 【今年度の目標】
- 令和元年度から作成している「本気で防災を学ぶ紙芝居型日本語教材」(以下「防災日本語紙芝居」)の追加(最終)作成が完了した。全14スライド。
 - オンラインも含めた教室活動の中に「防災」を無理なく取り入れた地域日本語教室のモデルを提示することができた。
 - 「防災」を教室活動に積極的に取り入れる意識をもった「担い手(日本語学習支援者)」の候補者とはつながりをもてたが、育成には至らなかった。
 - 「防災-外国人住民-日本語-日本語教室」の重要性を認識し、そのような視点で「地域日本語教室」の有用性を理解する人は徐々に増えているが、非常に限定的である。ただ、本事業3年めにしてはじめて、災害支援を展開する姉妹団体との連携が進んだ。
 - 「本気で防災日本語紙芝居」の普及活動はこれからの課題である。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

今回の事業における「連携」で特筆すべき2点を記す。
まず、講師として協力してくださった、「防災」の専門家、「ファイナンシャルプランナー」の方々が外国人住民に対して理解を深めてくださったこと、また、外国人住民に理解しやすい日本語、話の進め方で非常に質の高い内容のワークショップを実施して下さるようになったことである。日本語教師や支援団体が間に入らずとも、講師、参加者が直接にやりとりを進める様子から、双方の成長を実感した。
また、活動基礎講座に参加して下さっていた方が間に入って動いて下さり、熱海国際交流協会において、当団体の事業でお世話になっているプラスアーツの小倉講師がワークショップを実施することとなった。防災ワークショップの必要性を各方面で機会があるごとに訴えているが、各地域や団体でワークショップ実施に至るには、その内部に行動を起こせる理解者がいることが重要である。そのきっかけを活動基礎講座の連続実施が可能にしてくれたことは他団体との関係づくりという点で大きな示唆を与えてくれた。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

外国人住民に対しての講座等への周知は、まず、主催団体への信頼が作られていること、加えて実施する講座等が有用であることが重要である。「工夫」というわけではないが、参加者の期待にこたえる講座内容の質を維持することが結果的には、より多くの参加者を集めるきっかけとなるのではないだろうか。事業成果は、一過性のシンポジウムではなく、成果を発信できる資料作成に注力した。発信を継続すること、分かりやすく伝達できることが、成果の発信として重要であると考えている。

(5) 改善点、今後の課題について

様々な事業の中で、「モデル」を提示するのではないかと考えるが、この「モデル」が実際に各地域での同種の取り組み実施にあたっては、その地域においてより有効なかたちに「修正」される必要がある。それができる「理解者」＝「担い手」の育成は、今後の課題として残っている。
また、コロナ禍において、オンラインでの講座やワークショップなどが増えているが、オンラインの長所短所、対面実施の長所短所を再度検証し、より有効な方法を検討していく段階に至っていると実感している。

(6) その他参考資料

- ・チラシ(ワークショップ「将来のための備え①」)
- ・チラシ(ワークショップ「将来のための備え②」)
- ・チラシ(ワークショップ「防災」)
- ・チラシ(生活勉強会)
- ・チラシ(活動基礎講座)